

SFC 研究所所長 殿

## SFC 研究所ラボラトリ年次活動実績報告書

ラボ名称	看護ベストプラクティス研究開発・ラボ					
ラボ代表者	氏名	宮脇 美保子	所属	看護医療学部		
ラボ設置期間	2012年3月1日		～	2024年3月31日	12	年間

ラボラトリの学外研究拠点 ※学外の拠点で活動している場合、その詳細を記載ください。	
名称（例：東京〇〇ビル）	所在地（例：東京都〇〇区〇〇1-1-1 5F）
看護医療学部 宮脇研究室内	藤沢市遠藤4411

構成メンバー（提出時点）		
氏名	所属・職位	役割
宮脇 美保子	看護医療学部・教授	ラボラトリ・リーダー・倫理的看護実践研究開発
武田 祐子	看護医療学部・教授・学部長	遺伝看護実践研究開発
野末 聖香	看護医療学部・教授	精神看護実践研究開発
永田 智子	看護医療学部・教授	倫理的看護実践研究開発
深堀 浩樹	看護医療学部・教授	高齢者看護実践研究開発
田口 敦子	看護医療学部 教授	看護実践研究開発
矢ヶ崎 香	看護医療学部 教授	がん看護実践質保証研究開発
小池 智子	看護医療学部 准教授	ベストプラクティス先導ナース開発研究
大坂和可子	看護医療学部 准教授	がん看護実践質保証研究開発
福井 里香	看護医療学部 准教授	倫理的看護実践研究開発
福田 紀子	看護医療学部 准教授	精神看護実践研究開発
宮川 祥子	看護医療学部 准教授	看護医療学部 准教授
朴 順禮	看護医療学部 講師	看護医療学部 准教授
新幡 智子	看護医療学部 講師	がん看護実践質保証研究開発
田村 紀子 他 講師・助教14名	看護医療学部 講師	がん看護実践質保証研究開発

## 年次活動実績報告

### 研究活動報告 (設置申請書, 継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。)

看護ベストプラクティス研究開発・ラボラトリの活動は、「看護実践の質保証研究開発」「ベストプラクティス先導ナースの開発」「倫理的看護実践のためのシステム構築」の3つのプロジェクトを基軸に展開してきた。具体的には、患者のQOL向上をめざしたケアツールやケアプログラムの開発と検証、ケアの質評価指標および評価尺度の開発に取り組んできた。

今年度取り組んだのは、継続申請書1年目に挙げた内容であり、その成果は成果報告書に記載している。

#### 【プロジェクトA: 看護実践の質保証研究開発】

患者アウトカムを促進するための最適なケアのエビデンスを集積し、標準化を行う。具体的計画の例を示す。

- ・生体センサを活用した心不全患者のための「こころと眠りの支援プログラム」開発と評価
- ・臨床遺伝看護分野（がん看護領域）の継続教育プログラムの開発
- ・高齢者施設・住まいにおける避けられる救急搬送・入院を削減する複雑介入の開発

#### 【プロジェクトB: ベストプラクティス先導ナースの開発】

大学病院における人事交流を中心として、1) 基礎教育においても高い教育力を発揮できる臨床指導ナースの育成、2) 教育力・看護実践力の向上が図れる教育プログラムの再構築を行う。

#### 【プロジェクトC: 倫理的看護実践のためのシステム構築】

患者中心の医療を実現するための倫理的職場風土の醸成を目指す。

- ・患者主体の移行期ケアの方法論確立に向けて：患者の参加と体験についての多角的調査
- ・倫理的看護実践の推進を目指したリーダー養成のための研修プログラム・教材の開発
- ・看護学実習において学生が経験した「患者中心」の看護と教員の学生理解に関する研究

その他、研究者の研究成果発表会を2021年12月にオンラインで開催した。

プレゼンターは下記の2名で、参加者間で研究内容の共有と活発な意見交換が行われた。

田口 敦子

「地域包括ケアシステムにおける在宅医療の推進と住民ボランティアとの協働」

石川志麻

「医療的ケア児とその家族の生活拡大につながる多職種支援」

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

著書

- ・永田智子, 田口敦子. 外来で始める在宅療養支援 ニーズ把握と実践のポイント. 東京都: 日本看護協会出版会, 2021
- ・渡辺裕子, 中村順子, 本田彰子, 炭谷靖子, 山田雅子, 永田智子. 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論第5版. 東京都: 日本看護協会出版会, 2021
- ・永田智子, 佐川きよみ, 小西美香子. 地域保健活動における主要用語の定義: デルファイ法を用いた全国調査. 日本公衆衛生雑誌 68 (8), 538-549, 2021
- ・宮脇美保子: 改訂 身近な事例で学ぶ看護倫理(第2版)、中央法規. 出版, 2021
- ・宮脇美保子編: 基礎看護学概論 第5版、メヂカルフレンド社, 2021

論文

- ・Yagasaki K; Komatsu H; Hamamoto Y. Rediscovering the Joy of Eating in Older Adults With Gastrointestinal Cancer Undergoing Treatment: A Qualitative Study. *Cancer Care Research Online*. 2022. 2:e017.1-6.
  - ・Taguchi A, Murayama H, Ono K: Association between Japanese community health workers' willingness to continue service and two categories of motives: altruistic and self-oriente. *PLoS ONE*, 2021 doi:10.1371/journal.pone.0220277
  - ・佐々木美瑠, 田口敦子, 松永篤志, 山内泰子, 山内悦子, 永田智子: 外来での在宅療養支援カンファレンスの実施に向けた体制づくりのプロセス. *日本医療マネジメント学会雑誌*, 22(2), 88-94 2021
  - ・宮脇美保子(2021): 倫理を意識することで現場は変わる~看護管理職を中心に浸透させる方法~看護のチカラ, 88-92
  - ・Nishikawa, Y., Fukahori, H., Mizuno, A., & Kwong, J. S. (2021). Cochrane corner: advance care planning for adults with heart failure. *Heart*, 107(8), 609-611. <https://doi.org/10.1136/heartjnl-2020-318458>
  - ・Yamamoto-Kon, A., Fukahori, H., Ogata, Y., & Nagano, M. (2021). Validity and reliability of Japanese version of the pressure ulcer knowledge assessment tool. *J Tissue Viability*, 30(4), 566-570. <https://doi.org/10.1016/j.jtv.2021.08.002>
  - ・寺岡貴子., 深堀浩樹., 野末聖香., & 福田紀子. (2021). 日本の認知症高齢者を在宅介護する家族介護者の体験のメタ統合. *日本精神保健看護学会誌*, 30(2), 39-49. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/VC07360005>
  - ・Sado M, Kosugi T, Ninomiya A, Park S, Fujisawa D, Nagaoka M, Mimura M. A Long-Term Pilot Study of Mindfulness-Based Cognitive Therapy for Subjective Well-Being Among Healthy Individuals in Comparison with Clinical Samples. *Psychology Research and Behavior Management*. In Press 2021
  - ・朴順禮. セルフ・コンパッション. 緩和ケア, Vol. 31 No. 5 p.362-365. 2021. 09
  - ・藤澤 大介, 朴 順禮 「各施設での組織的な取り組み」—マインドフルネスとコンパッションによる燃え尽き低減プログラム: MaHALOプログラム. 緩和ケアVol. 31 No. 5 p. 371-374. 2021. 09
  - ・朴順禮. ケアする人のケアを考える 医療従事者のマインドフルネスとコンパッションを涵養する MaHALOプログラム 認知療法研究 (1883-2296)14巻2号 Page137-138 (2021. 06)
  - ・小池智子(2021): 医療勤務環境改善にナッジを活かそう!, 看護のチカラ556 : p6-11.
  - ・小池智子(2021): ナッジで感染対策を設計しよう (特集「感染対策をナッジで後押し」), 看護73(7) : 64-71.
  - ・Tomoyuki Takura ,Tomoko Koike, Yoko Matsuo, Asuko Sekimoto, Masami Mutou(2022), Proxy responses regarding quality of life of patients with terminal lung cancer: preliminary results from a prospective observational study, *BMJ Open* 2022;12:e048232. (doi:10.1136/bmjopen-2020-048232)
  - ・山本亜矢. これからの装具・装具選択に求められるもの(展望) 特集 選べる! 使える! ストーマ装具, 看護技術 68(3): pp2 -6, 2022
  - ・Aya Yamamoto-Kon, Hiroki Fukahori, Yasuko Ogata, Midori Nagano. Validity and reliability of Japanese version of the pressure ulcer knowledge assessment tool. *Journal of Tissue Viability* 30(4):566-570, 2021
- 学会
- ・Miyawaki M., Miyabayashi I., Matsuzaki A.: The Effects Program to Ethical Leader Training for Mid-career Nurses, *Sigma and Creating Healthy Work Environment Conference*, (2022. 3.31-4.1. Online)
  - ・Ishikawa S, Fujita M, Iwase S & Fukita S: Multidisciplinary Support for Children with Special Healthcare Needs and their Families. *6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing*. Online. Jan 2022.
  - ・野末聖香: COVID-19において大学でできる支援を模索する経験, 日本精神保健看護学会第31回学術集会・総会大会企画シンポジウム「COVID-19対応における支援システムの共創造—臨床現場と教育・研究の視点から支援の多層性を考える」2021
  - ・野末聖香他: うつ病看護ガイドライン研修会、第18回日本うつ病学会総会・第21回日本認知療法・認知行動療法学会ワークショップ2021
  - ・野末聖香他: コロナをきっかけに問い直す、メンタルヘルスへのテクノロジーの寄り添いかた—コロナボレーション・セッション、慶應義塾大学SFC Open Research Forum202

- ・山吉花菜子, 田口敦子, 松永篤志, 永田智子: 大学病院の外来看護師による在宅療養支援の実装に向けた検討. 日本地域看護学会第24回学術集会, オンライン, 2021
- ・佐藤桃香, 田口敦子, 村山洋史: 地域在住高齢者の被援助志向性への関連要因の検討. 日本地域看護学会第24回学術集会, オンライン, 2021
- ・三浦桃子, 宮脇美保子 (2021): 外国人入院患者を看護する看護師の経験~異文化に焦点を当てて~第41回日本看護科学学会, (12. 6. Online)
- ・宮脇美保子 (2021): 日本薬学会主催、看護薬理学カンファレンス「治療とともに生きる患者の支援」シンポジスト (2021. 11. 13 Online)
- ・瀧田結香、藤澤大介、朴順禮、武田祐子. PH患者のための身体面・精神面を支えるプログラムの開発. 第6回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会. 2021年5月
- ・山田成志, 小杉哲平, 二宮朗, 是木明宏, 橋本善太, 長岡麻貴, 朴順禮, 他. 不安障害に対するマインドフルネス認知療法のfollow-up programのfeasibility studyによる効果および費用対効果の検証. 第8回日うつ病学会総会・第21回日本認知療法・認知行動療法学会. 2021年7月
- ・二宮朗, 小杉哲平, 是木明宏, 橋本善太, 永岡麻貴, 山田成志, 朴順禮他. 健常成人に対するマインドフルネス介入の有効性を予測する要因の検証. 第8回日本うつ病学会総会・第21回日本認知療法・認知行動療法学会. 2021年7月
- ・小池智子: 医療安全におけるナッジの活用, 「シンポジウム:Unnoticed Factor (気づかれていない要因) に目を向けよう—医療安全へのアナザーアプローチ」, 第7回日本医療安全学会学術総会. (2021. 5. 29~6. 7 WEB開催)
- ・橋谷典子, 小池智子: わが国における孤立予防のための社会的処方の現状, 日本老年社会科学学会第63回大会, (2021. 6. 12 ~6. 27, online)
- ・佐藤陽子, 小池智子: 特定機能病院の中堅看護師の職務継続意思に影響する要因, 第24回日本看護管理学会学術集会 (2022. 8, online)
- ・内山映子, 山本なつ紀, 秋山美紀, 石川志麻, 小熊裕子, 田口敦子, 永田智子. COVID-19感染拡大下の地域住民の生活調査 (第一報):変化・困り事の現状把握、日本公衆衛生学会 2021年12月21~23日 東京都 (ハイブリッド)
- ・山本なつ紀, 内山映子, 秋山美紀, 石川志麻, 小熊祐子, 田口敦子, 永田智子. COVID-19感染拡大下の地域住民の生活調査 (第二報):変化・困り事とストレスの関連、日本公衆衛生学会 2021年12月21~23日 東京都 (ハイブリッド)
- ・那須佳津美, 深堀浩樹, 宮下光令., 認知症の人の死亡前1か月の救急搬送と救急受診の要因: 遺族へのWeb調査の二次解析. 日本家族看護学会第28回学術集会. 2021年10月2日-3日.

#### 社会活動

- ・宮脇美保子: 「倫理に基づく看護実践」、東京都看護協会 主催研修会講師, 2021. 9. 28
- ・宮脇美保子: 「看護職と倫理」沖縄県看護協会研修会 (2021. 7. 16. Online)
- ・宮脇美保子: 「今!!看護管理者に求められる倫理観~組織の看護倫理を熟成させる~」和歌山県看護協会 (2021. 9. 25. Online)
- ・福井里佳: メンタルケア・スペシャリスト養成講座基礎課程「看護と介護」研修会講義: 2021年5月16日
- ・福井里佳: メンタルケア・スペシャリスト養成講座実践課程「高齢者や認知症の方々へのかかわりと生活援助」研修会講義: 2021年7月25日
- ・小池智子: 職場をより良くする仕掛け-ナッジのマネジメントへの応用, 公益社団法人全国自治体病院協議会「2021年第1回看護管理オンラインセミナー」(2021. 7. 1~9. 30, online)
- ・小池智子: よりよい意思決定に向けたナッジの活用-職場をより良くする仕掛け, 公益社団法人 神奈川県看護協会看護師職能委員会 I 研修会. (2021. 10. 22, online)
- ・小池智子: よりよい意思決定に向けたナッジの活用-職場をより良くする仕掛け, 「公益社団法人 大阪府看護協会 短期研修」. (2021年10月30日, 大坂)
- ・小池智子: よりよい意思決定に向けたナッジの活用-職場をより良くする仕掛け, 日総研『主任看護師Style』ナッジワークショップ, (2022. 1. 16日, 東京)
- ・小池智子: 基調講演「医療機関の職場をより良く働き方を変える仕掛け~ナッジ理論の活用」~, 厚生労働省「令和3年度医療勤務環境改善マネジメントシステムの普及促進等事業」医療機関の働き方改革セミナー【職種別】. (全5回: 2022. 2. 12, 2. 18, 2. 21, 2. 25, 2. 28, online)